様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年　4　月　26　日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(S)
研究期間：2008 年度　～　2012 年度
課題番号：20223004

研究課題名（和文）　少子高齢社会の階層格差の解明と公共性の構築に関する総合的実証研究

研究課題名（英文）　A Comprehensive Study Examining the Forms of Social Stratification in an Aging Society and Constructing Public Norms

研究代表者　白波瀬　佐和子（Shirahase, Sawako）
研究者番号：00361303

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学
キーワード：少子高齢化、階層格差、公共性

１．研究計画の概要

平成 20 年度から 24 年度にかけての 5 年間の研究計画は次の通りである。

(1) 研究体制の確立と理論枠組みの整理

本研究は少子高齢社会の階層格差について、実証的かつ理論的な検討を実施することを目的とする。初年度は、研究体制を確立し、本研究の理論的枠組みを中心に検討した。

(2) 自治体調査の実施

東京都稲城市から協力を得て、「稲城市住民の生活実態に関するアンケート調査」と面接調査を実施した。

(3) 全国調査の実施

2010 年 8 月、全国の 50 歳以上 85 歳未満の男女を対象に「中高年の生活実態に関する全国調査」を実施した。

(4) 調査データの分析

上 2 つの社会調査データの分析、検討を進める。さらに、所得と家族に関する既存のミクロデータについても分析する。

(5)新たな社会階層論に向けた検討

少子高齢社会の階層構造のメカニズムを検討、考察し、政策理念の一つともなりうる公共性概念の構築を試みる。

２．研究の進捗状況

これまでに本研究では大きく 3 つのことを行ってきた。

(1)　大規模社会調査の実施

稲城市と全国を対象とした二つの大規模社会調査を実施した。稲城市からの協力を得て実施した「稲城市住民の生活実態に関するアンケート調査」(2009 年 10 月実施）は、回収数 3,061 ケース、そのうち 24 ケースについて詳細なインタビュー調査を実施した。興味深い分析結果の一つに、高齢層の社会的活動（趣味、老人クラブ、ボランティア等）のジェンダー差がある。男性は仕事があると社会的活動も活発であるが、無職者が増える 75 歳以上になると社会的活動の程度は大きく低下する。女性にも同様の傾向が認められるが、もともと就労率が低く、その低下程度は男性ほどではない。仕事が中心の生活からの移行がうまく進まないと、男性のほうが孤立する危険が高い。特に男性の間で、支援ネットワーク保有量が二極化する傾向にあった。

面接調査では、高齢期に対する不安として孤独死があげられ、自治体による見守りサービスへの要望があった。しかし、自治体に対する要望を積極的に述べる者は健康で、家族もおり、近隣との関係も良好な傾向にある。自治体行政として、声として上がってこない福祉ニーズの高い住民をどう救いあげるかが課題となる。

2010 年に実施した「中高年の生活実態に関する全国調査」(中高年調査）は 71.6%の回収率を得て、現在、データクリーニングを行っている。また、「社会保障制度に対する意識に関する調査」を実施し、2,536 ケースの回答を得た。

(2)　長期の所得ミクロデータ分析

1986 年から 2007 年までの「国民生活基礎調査」(厚生労働省）を用いて分析を進めた。その内容は大きく 5 つあり、経済的不平等の時系列変化、生活の豊かさ意識と経済格差、健康と経済格差、介護と経済格差、そして疑似コーホート分析、である。

1986 年から 2007 年にかけての相対的貧困率（貧困率）の趨勢をみると、1986 年 13.2%で、1980 年代と 90 年代にかけて貧困率は 13%台を上下する。平成不況に突入した経済の停滞期である 90 年代半ばに貧困率は 14.6%とな

る。その後、貧困率が若干低下するが、2000年前後で再び上昇し2001年には15.8%となる。2007年時点で日本の貧困率は15.9%である。

(3) 国際カンファレンスの開催

2009年9月、イタリア、European University InstituteからProfessor Martin Kohli氏とフランス、国立高齢者保険研究所(Caisse Nationale d' Assurance Viellesse) からDr. Claudine Attias-Donfut氏を招聘して、"Social Inequality in Transferring Resources across Generations"と題するワークショップを開催した。そこでの成果は本研究プロジェクトのディスカッションペーパーとして掲載されている。さらに、2010年11月には、イェール大学にて"Searching for the New Wave of Japanese Studies in Social Sciences"と題して、Professors William Kelley とKaren Nakamura氏を迎えて、日本の階層研究を含むこれからの日本研究のあり方を探った。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）本研究の中心となる中高年者を対象とする大規模全国調査を予定通り実施し、71%という近年には珍しい高い回収率を得ることができた。それには、前年に実施した「稲城市住民の生活実態に関するアンケート調査」ならびに面接調査での経験が大いに役立った。国際的にも少子高齢社会の階層研究に対する関心が高く、国内外の研究者から将来に向けた共同研究の可能性についての問い合わせがある。

４．今後の研究の推進方策

今後の研究として、大きく三つのことを考えている。第一に、2010年中高年調査での調査協力者3,532人に対して、追跡調査を実施する。第二に、2010年中高年調査、社会保障意識調査、所得と家族に関するミクロデータを用いて、本格的な分析を進める。その成果は広く内外に公表する。

第三に、これまで蓄積してきた実証データ分析をもとに、公共性概念の構築に向けた研究を本格化する。

５． 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計55件）

Shirahase, Sawako, 2010, "Japan as a Stratified Society: With a Focus on Class Identification," *Social Science Japan Journal*, vol.13, no.1, pp.31-52. 査読有

Horioka, Charles Yuji, 2010, "The (Dis)saving Behavior of the Aged in Japan," Japan and the World Economy, vol. 22, no. 3, pp. 151-158. 査読有

Horioka, Charles Yuji, 2010, "Aging and Saving in Asia," *Pacific Economic Review*, vol. 15, no. 1, pp. 46-55. 査読有

盛山和夫、2009、「望ましい分配ルールとは何か－階層の規範理論をめざして」『理論と方法』第24巻第1号、pp.3-19. 査読有

白波瀬佐和子・竹内俊子、2009、「人口高齢化と経済格差拡大・再考」『社会学評論』第60巻第2号, pp.259-278. 査読有

〔学会発表〕（計48件）

Shirahase, Sawako, "Social Inequalities in Contemporary Japan: From a Mass-Middle-Class Society to a Class-divided Society," Columbia University, 2011/02/02.

Nakata, Tomoo, "Difference in Self-Rated Health Trajectories between Gender among Elderly Japanese People," Annual Conference of Gerontological Society of America, Atlanta, 2009/11/22.

Horioka, Charles Yuji, "Recent Trends in Consumption and Savings in Japan, "Conference on "Economic Crisis and Recovery," Singapore, 2009/10/7,8.

Shirahase, Sawako, "Income Inequailty in a Rapidly Ageing Society, Japan, in Cross-national Perspective," Annual Meeting of the German Association for Social Science Research on Japan, Düsseldorf, 2008/11/28.

Seiyama, Kazuo, "Fair and Efficient Egalitarian Norm under Rationality," ISA Forum of Sociology, Barcelona, 2008/9/5,8.

〔図書〕（計10件）

盛山和夫 『社会学とは何か』ミネルヴァ書房、2011年、270頁

白波瀬佐和子『生き方の不平等』岩波書店、2010年、230頁

轟亮・杉野勇（編）『入門・社会調査法』 法律文化社、2010年、235頁

白波瀬佐和子『日本の不平等を考える』東京大学出版会、2009年、302頁

Ueno, Chizuko, The Modern Family in Japan, Trans Pacific Press, 2009, pp.283.

〔産業財産権〕

該当なし

〔その他〕

http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~kaiso-08/index.html